

序章 葛城市らしい景観と目指すべき姿

*法第8条第2項第2号関係

1. 葛城市らしさ

葛城市（以下、「本市」という。）は、「万葉集」にも登場する二上山などの美しい山々に抱かれ、大和川水系がもたらす多くの河川が流れる自然溢れる土地です。二上山や葛城山が連なり、麓には盆地が広がる地形的特徴は農耕に適していたため、多くの集落が形成され、古代より人が暮らす環境が育まれてきました。この恵まれた環境から古墳時代には葛城氏などの有力在地豪族が頭角を現し、より一層の繁栄をもたらしました。飛鳥時代には、「日本書紀」に記されている日本最古の官道である竹内街道が通り、本市は街道の宿場町としても栄えました。また、山岳信仰により建てられた由緒ある社寺などが多く存在し、古より人々が行き交い栄えてきた土地でもあります。そのため、本市には多くの名所旧跡や言い伝え、物語が残されています。

古くから人々が自然との共生の中で作り上げてきた田園と青垣の風景は現在も本市の原風景として残っています。時代の変化に応じ、古いものと新しいものが対比、融合する中で創られてきた景観は、緑豊かな山並みや古より伝わる歴史、人々の暮らしが一体となった“葛城市らしさ”といえます。

2. 基本的な理念

基本理念

青垣に見守られた豊かな歴史と自然に溢れるまち 葛城

二上山から葛城山へ連なる青垣の四季折々の景観や田園の景観、河川やため池などの水辺の景観、市街地の景観など、人々が自然との共生の中で作り上げてきた景観が残っています。基本理念は、本市がもつ市域全体に広がる多彩な景観の魅力を引き出し、輝きを感じるような景観づくりを推進していくことを表しています。

今後は基本理念に基づき、本市の特色ある景観の創造に取り組むとともに、人々に安心感を与え、郷土愛の溢れる景観まちづくりを市民・事業者・行政の協働によって推進し、本市らしい景観を次世代へと継承していきます。

3. 基本目標

(1) 葛城の山、川、ため池の豊かな自然景観を守り育て、次世代へ継承します。

■山麓景観の保全、育成

本市の景観上の特性は、何より本市を常に見守るようにそびえる青垣の自然条件にあるといえます。常に市民の暮らしを見守ってきた本市の山々は、古より人々の心を癒してきました。また、二上葛城山地は古くから文化が開け、発達してきた場所であり、信仰の対象ともされてきたため、多くの社寺や古墳などの歴史的景観資源が所在しています。

二上葛城山地は金剛生駒紀泉国定公園に指定されており、その周辺は自然環境保全条例に基づき、金剛葛城山麓景観保全地区に指定されているため、既に自然環境の保全に取り組んでいる地域ですが、今後は本市の魅力となっている山麓景観のより一層の保全を進めていくとともに、官民協働による適切な維持管理の推進、山麓景観との調和を図った土地利用や建物デザインの誘導、視点場や遊歩道の整備を行うなど、景観づくりに努めていきます。

■緑の景観保全、再生、育成

山並みと一体感のある景観を形成している河川やため池、田園の豊かな自然景観は、本市の景観の特徴であり、社寺や古墳などの本市の歴史と相まって、他の都市にはない大きな魅力となっています。

緑の一体感を保全、形成していくため、失われつつある山並みの季節ごとの色合いや古墳群の再生を図るとともに、適切な維持管理に努めます。また、自然景観に馴染む建物デザインや建物規模などの誘導を図り、緑を生かした景観づくりを進めていきます。

(2) 日々の暮らしの中で培われてきた人と自然が共生する景観を守り育て、次世代へ継承します。

■集落景観の保全、育成

平地部及び山麓部は主に農地として利用され、水田等とともに農村集落が形成されています。また、農村には、菜の花畑をはじめとして、桑畑、そば畑、小麦畑やひまわり畑など、四季折々の畑の景観があり、緑豊かな田園景観とともに市内の景観を鮮やかに彩っています。

これらの集落は、長い月日を人と自然が共生する中で作られた景観であり、現在も農道や木造民家、石垣、神社、水門などが残され、昔ながらののどかな生活景観を形成しています。

このような生活景観を保全、育成をしていくため、身近な景観資源の掘り起こしをはじめ、ゆるやかなルールづくりなど、住民主体の景観づくりを支援します。

（３）葛城の歴史・文化を伝える景観を守り育て、次世代へ継承します。

■歴史資源周辺の景観の保全、育成

本市には、當麻寺などの文化財に指定されている建物や葛城の歴史を伝える代表的な建物や歴史的・文化的資産などが多く残され、交通の要衝として栄えていた竹内街道は日本遺産に登録されています。これらの資源は、それぞれの地域の特色を強め、市民の郷土愛の向上に繋がります。また、落ち着いたくつろぎのある空間を提供するとともに、本市の歴史を垣間見せてくれる重要な景観資源です。

歴史資源がもつ景観や文化を守り、次世代に継承するには、資源単体の保全だけでなく、歴史資源を中心とした周辺の景観の保全や歴史的事象を踏まえた資源の再生に取り組んでいくことが大切です。このため、歴史資源周辺の環境の保全、雰囲気を生かした街並み形成の誘導、歴史的事象の掘り起こしなど、ソフト、ハードの両面から景観づくりを進める方向で検討します。

■地域の文化的景観の保全、継承、育成

本市には、市内各地で行われる御田植祭や柿本神社のチンポンカンポン祭、當麻寺練供養など、多くの郷土の歴史、文化を伝承する行事があり、地域に伝わる言い伝えや物語なども多く残されています。そのため、地域の伝統行事などの人々の取組みによるソフト面の景観づくりを推進するための支援をします。

（４）新たな魅力ある景観の創出を図り、次世代へ継承します。

■中心市街地の顔づくり

本市の市街地の景観は、布施氏の新庄城跡に桑山氏が陣屋の城下町として町割りを行った新庄をはじめとして、昔ながらの風景が残されています。一方では、市街地として発展をとげ、大規模な店舗や行政・文化施設などの機能が集積し、中心的な都市機能も担っています。これらの新しい景観と昔ながらの景観を融合させ、統一感を図っていく必要があります。

また、本市の玄関口となる近鉄新庄駅とＪＲ大和新庄駅や、特急停車駅である尺土駅は乗降客数も多く、本市の玄関口としてふさわしい都市景観の形成を目指していく必要があります。

街路樹の適切な維持管理や緑化の推進、快適な歩行者空間の整備、無電柱化や建築デザインの誘導等による洗練された街並みの形成を図り、新たな魅力ある景観創出に努めていきます。

■潤いある生活空間の維持、形成

本市は戸建住宅を主体として、自然に恵まれた良好な住宅地景観が形成されています。

潤いのある生活空間の維持、形成を目指して、生活道路や公園等の生活基盤の充実を図り、落ち着きある色彩の街並みの形成など、景観の質の向上に向けた景観づくりを進めていきます。

4. SDGs の取組みについて

(1) SDGs の視点による推進

2015 年 9 月にニューヨーク国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」においては「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。この中で環境課題と社会課題を同時解決し、貧困のない持続可能な世界を次世代に受け継ぐため、17 の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）と 169 のターゲットが盛り込まれ、2030 年までの行動計画における重要な指針として位置付けられました。

SDGs の実現に向けては、国だけでなく地域レベルでの参画が不可欠であり、自治体レベルで取り組むことが求められています。

本計画においては、SDGs の理念に基づき、17 の目標のうち、主に「11 住み続けられるまちづくりを」と「15 陸の豊かさを守ろう」を中心に取り組んでいきます。

SDGs の開発目標項目		葛城市景観形成での活動
11 住み続けられるまちづくりを	・都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	・暮らしの根幹である河川やため池を持続的に保全し水源景観を守る
15 陸の豊かさを守ろう	・陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る	・景観を形成している山並みや河川、ため池などの自然系景観要素および田園や畑などの農村系景観要素を保全・活用する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

